

花岡小学校区の実践〔花岡小学校/花岡保育所〕

1. 学区の特色

公立幼稚園と小学校との連携には、長い歴史のある地区である。公立幼稚園が閉園した後は、花岡保育所がその交流、連携を引き継いでいる。急激に少子化が進む中で、小学校では課題対応能力の育成に特化した「チャレンジ授業・活動」を展開しており、子ども主体の学びは、保育所でも共通して実践されている。

2. 今年度の取組

	子どもの交流活動	教職員の参観・合同研究会	架け橋調査研究委員会
5月	①小学校の運動会参加2回		
6月	②七夕交流会(小で飾り付)	①要請訪問(保育参観)	
7月	③七夕交流会 ④読み聞かせ会(サトシンさん)	②評価委員会(保育参観)	
8月		③小学校教諭の保育参観(夏季研修会)	
9月	⑤学習発表会見学		
10月		④学校保健委員会+情報交換	
11月	⑥読み聞かせ会(グループ風)		①協議(実態・課題の洗い出し)
12月		⑤市訪問(年長児保育参観)	②協議(目指す姿・育てたい力の焦点化)
1月	⑦新春カルタ大会		③カリキュラム作成
2月	⑧体験入学	⑥保育士の授業参観	④カリキュラム作成 ⑤カリキュラム作成

3. 取組の実際

職員の交流により互いの保育・教育の理解を図る

- ① 保育参観、研究会への参加(6月16日/12月12日)
校長と1年担任が保育を参観し、研究会の協議にも参加した。「10の姿」を視点に子どもの姿と育ちを捉えることで、年長児が遊びを通して身に付けている様々な力に気付くとともに、その力を育むための環境の構成や保育者の援助への理解を深めた。
- ② 保育所職員による小学校の授業参観(2月10日)
参観を通し、小学校以降の学びの姿や育ちのつながりを共有するよい機会となった。次年度はもっと早い時期に実施したい。

1年生の授業では、子どもたちが楽しんで参加しているのが伝わり、先生方の温かい指導や声かけがあるからこそその姿だと思いました。子どもたちが安心感をもって挑戦できる、そして受け止めてもらえるという、保育所とのつながりを感じることができました。(感想より抜粋)

交流活動を通して子どもの姿の理解を図る

- ① 小学校の運動会への参加(4月20日/5月8日)
年長児が小学校の運動会に参加し、大玉転がしと玉入れの2種目に出場した。散歩がてら学校に来てくれた年長児と事前練習もした。1年生は入学間もないながらも年長児を気遣う姿も見られた。玉入れは、はちくんダンスに合わせて踊る場面もあり、知っている曲に、楽しんで参加する年長児の姿が見られた。(保育所ではその後も散歩を兼ねて学校に立ち寄っている。)
- ② 七夕交流会(6月30日/7月5日)
1回目は、年長児が小学校で1年生と一緒に七夕飾りを作り、2回目は、1年生が保育所での七夕祭りに参加し、七夕のお話を聞いたり、笹竹の飾り付けをたりして楽しんだ。1年生は飾りの付け方を優しく教えたりはきはきと進行したりする姿が見られ、保育者も、その成長ぶりに驚いていた。



- ③ 新春カルタ大会(1月18日)
毎年、地域の県指定有形文化財の「鳥潟会館」で開催され、年長児と1年生が、保育所の頃からずっと遊んでいる花岡地区のふるさとカルタで対決する。年長児は遠慮なく、1年生も手加減せずお互いに一歩も引かない真剣勝負が繰り広げられた。
- ④ 一日体験入学(2月1日)
1年生は招待状を保育所に届け、年長児のリクエストを聞き、4人で協力しながら計画・準備を頑張った。当日は学校探検・名前書き・しっぽ取り鬼・おもちゃ遊びなど、積極的に話しかけながら、自分たちで進めていた。8人の年長児も次第に雰囲気慣れ、楽しい時間を過ごしていた。



カリキュラム調査研究委員会の実施

- 第1回(11月28日) ▶めざす姿の共有
保育所と小学校の子どもたちの「よさ」と「さらに伸ばしたいところ」を出し合うと、「よさ」として、「自然への興味・関心が高い、友達を助けよう協力しようという気持ち強い、本に親しんでいる」など、共通点がたくさん出てきた。また、「さらに伸ばしたいところ」として、「失敗しても折れない気持ち、まずはやってみようとする気持ち、興味・関心の広がり、知的好奇心、語彙力の向上」などが共通していることが見えてきた。参加者:校長/教務主任・1年担任/年長児担任
- 第2回(12月12日) ▶学区としての重点、育てたい力の決定
課子どもたちの「よさ」を生かしながらさらに育てたい力について協議し、①「直接体験の重視」②「知的好奇心の醸成」③「自己肯定感の育成」を共通の視点とすることにした。参加者:校長/教務主任・1年担任/所長/主任/年長児担任
- 第3回(1月13日) ▶具体的な体験・活動の協議
共通の視点に合わせて、保育所、小学校それぞれで活動を位置づけてみた。その上で、どんな力の育ちをねらった活動なのかが明確になる表し方を考えた。参加者:校長/教務主任・1年担任/所長/主任
- 第4回(2月9日) ▶保小のつながりを考えて検討
身に付けたい資質・能力と共通した重点、体験・活動について、保小のつながりやねらいが明確になるように見直した。身に付けたい力が明確になるように記号を書き入れることにした。参加者:校長/教務主任・1年担任/主任/年長担任
- 第5回(2月27日) ▶全体の見直し、成果と課題の協議
体験・活動の表し方、援助のポイントなど、全体的に見直しをした。活動の内容によって色分けし、保育所と小学校とのつながりを分かりやすく配置すること、また、育てたい力の中心となるものを色付けすることにより明確にすることにした。次年度の交流の予定や改善点についても話し合い、見通しをもった。参加者:校長/教務主任・1年担任/所長/主任/年長児担任



4. カリキュラム開発における成果と課題

- ① 成果
・ 保育を参観し協議に参加することで、遊びから獲得されている様々な力に気付くことができた。
・ 幼保のつながりのよさや同じ方向を向いていくことの大切さを感じ、保育所で大切にしていること、育てた力を小学校でも生かしていこうという意識を強くもつようになった。
・ 調査研究委員会の協議を通して、保小ともに大事にしていることが共通しているに気付くことができ、これからも連携した取組を大切にしていきたいと感じた。
- ② 課題
・ コロナ禍で予定していた取組ができないこともあるが、その都度臨機応変に対応していく。
・ 入学当初の1年生の様子を見てもらうために、4月の授業参観は必要。

花岡小学校区 モデル地区架け橋充実期のカリキュラム全体計画

架け橋期に期待する子どもの姿

大館市 周囲の人々と環境と主体的に関わり、学ぶ喜びや楽しさを実感しながら仲間と共に育ち合う子ども
花岡小学区 ゆっくり たっぷり じっくり かかわりと学びを広げる子ども

月	10	11	12	1	2	3
期	5歳児 第3期			5歳児 第4期		
小学校区で目指す子どもの姿	・ 友達と一緒に考えたり、話し合ったり、折り合いを付けたりしながら共通の目的に向かって遊びや生活を進める楽しさを味わう。			・ 自分や友達のよさが分かり、認め合ったり受け入れ合ったりして協力して、遊びを進める楽しさややり遂げる満足感を味わう。		
	・ 身近な生き物に興味をもち、世話することによって生命の尊さに気付いたり優しい気持ちが育つようにする。			・ 文字や数字などに興味をもち、調べたり遊びに取り入れて試そうとする。		
	・ 気付いたことや想像したことを友達と伝え合い、生活や遊びに取り入れる。			・ 身近な事象に興味、関心をもち見通しをもって生活する。		
★直接体験の充実 ◇知的・好意・心の育成 ♡自己肯定感の育成	・ 絵本を見たり物語を聞いたりしてお話の世界を楽しみ、楽しさや美しさに気付いたり、イメージを広げて遊びに取り入れたりする。			・ 絵本や物語などで見たり、聞いたりしたことを自分の経験と結びつけながら、想像したり、表現したりしようとする。		
	・ 言葉に対する感覚を豊かにし伝え合う喜びを味わう。			・ 冬の身近な自然事象に関心をもち、発見したことや不思議に思ったことなどを友達と一緒にやってみようとする。		
	・ 木の実や落ち葉、虫、数や大きさ、形などを比べて違いに気付く、伝え合う。			・ 冬から春の変化に気付く、試したり考えたりしたことを遊びに取り入れたり表現してみようとする。		
共通して充実を目指す活動・体験	・ 友達の考えに触れるなかで、自分と異なる考えがあることに気付く、良さを認めたり言葉で伝え合う喜びを感じる。			・ 考えを伝え合ったり相談したりしてイメージや目的を共有し、遊びや生活をつくる。		
	・ 遊びや生活を進めながら友達と協力し合い、仲間意識を高める。			・ 園生活の中で自分なりの役割を果たし、役に立つ喜びを知ったり友達と一緒に目的を持ち、達成しようとする。		
	く わくわく ときどき やってみよう					
自然に触れて感動する体験を通して（★◇♡） 収穫（さつまいも、大根菜）・焼いもパーティー 散歩（くすみ、松ぼっくり、どんぐり、とちのみ、ぎんなん、くりなど） 雨、風、息の白さ、気温、感触、食感	季節の変化を五感で感じる					
	生き物を通しての体験活動（★◇♡） カナヘビ、トカゲ、ザリガニ、メダカ					
	（★◇♡） ・雪遊び・水遊び・タオルあせ体験 ・探検・春探し ・発見をみんなで共有する ・不思議な現象を繰り返して試す ・気付きを探究心につなげる					
友達といっしょにやってみよう（★◇♡）						
【劇ごっこ】 ・イメージの伝え合い ・セリフを考える ・必要な道具を作る ・お話の世界を表現する	【運動会ごっこ・ルールのある遊び】 ・子ども達なりのルールで試してみる ・競い合う楽しさを味わい、繰り返し挑戦してみる					
	【年下の子といっしょに】 ・一緒に遊べるように工夫する ・自分の成長に気付く年下の子に教えてあげようとする					
	【制作遊び】 ・試行錯誤して作る ・友達の良さに気付く ・友達といっしょに作る ・卒園・お別れ会に向けて協力しながら進める					
言葉や想像の世界を広げよう（◇♡） ・保育所での読み聞かせ・おはなしのり（月1）・図書館貸し出し読み聞かせごっこ・劇ごっこ ・お気に入りの絵本を表現する（公民館祭り絵本展） ・保護者へ絵本の良さを知らせる（おすすめ絵本の紹介）						
文字や数に繰り返し親しむ（◇♡） 自分で好きな絵本を見る、友達と一緒に見る、クリスマスカード作り・年賀状作り・花岡かるた・カレンダー・お勉強ごっこ ・かるたの読み手、取り手の役割を楽しむ ・郷土の歴史に触れ、関心をもつ ・好きな絵本を友達と共有する ・文字や数に興味をもち使う楽しさを味わう						
※ 特にならうものについては、★◇♡で表記						
主な行事	就学時健診 秋の遠足 焼き芋交流会 幼保小中連携メディアコントロール週間 小学校市教員総合研への参加	おゆうぎ会 花岡地区文化祭 祖父母交流会	クリスマス会	★かるた大会 保育参観日 教職員研究実践発表会	豆まき ★体験入学 お別れ会 ひなまつりお茶会 情報交流会	卒園式
	○★環境調達の場ポイント					
	○★環境調達の場ポイント					
家庭との連携	・ 就学に向けての保護者の不安を受け止めて、職員間で共有するとともに安心して過ごせるよう声をかけていく。					
	・ 小学校へ必要な情報を知らせながら、相談できる機会や場につなげられるようにし、安心して就学を迎えられるようにする。					
	・ 子ども達のがんばりやよさについて伝え、1年の成長の喜びが園と家庭で共有できる場をもつ。					
・ 就学に向けての心配や不安を受け止め、一人一人に配慮して進めていくようにする。						
・ 規則正しい生活を送れるように一人一人の家庭環境に配慮し、できる範囲での生活リズムが整えられるようにする。						

花岡

保育所

花岡

小学校

4	5	6	7
小学校1年 第1期	小学校1年 第2期	小学校1年 第2期	小学校1年 第2期
- 入学の喜びを感じ、友達や上級生、先生とかかわる中で、様々な環境や新しい学習に興味をもち、安心して楽しく生活する。 - これまでの経験を生かしながら新しい学習に取り組み、意欲をもって学ぶ中で、約束やルール、マナーの必要性に気付く、身の回りのことを自分でやろうとする。 - お話の世界を想像したり、友達と楽しさを共有したりしながら本に親しみ、言葉を広げていく。 - 自分の思いを表現したり友達と伝え合ったりする楽しさを味わう中で、学び合いの約束を身に付けていく。 - これまでの学びとのつながりを感じながら、新しい環境の中で気付いたり発見したりしたことを伝え合ったり、自分の中に取り込めたりする。 - 新しく出会う先生や友達と一緒に活動する楽しさを感じながら進んで関わろうとする。 - 相手の気持ちを考えたり自分の行動を振り返ったりして楽しく生活しようとする。	- 小学校の生活や学習に見通しをもって取り組み、共に活動する楽しさを友達と共有し、意欲的に活動や学習に取り組む。 - 学校生活のリズムが身に付き、活動に見通しをもって準備したり約束やルールを守って行動したりする。 - 学校や通学路、公園などで安全に生活するために気を付けることに気付く、守って行動しようとする。 - 読んだり書いたり使ったりしながら、文字や数字、言葉による学びの楽しさを味わう。 - 経験したことや身に付けたことを活用したり友達の見方や考え方に触れたりしながら課題を解決していく。 - 自分の伝えたい目的や相手に応じて、言葉や方法を選んで伝えようとする。 - 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、連帯感や所属感を深める。 - 学校を支えている方々や地域の方などいろいろな人と関わることを楽しみ、地域への親しみを深める。	～レッツ・チャレンジ 「自立した子どもを育てる」～ 行ってみよう、見よう（★◇♡） 〈校外を探索しながら興味・関心を広げ、何度も行ってみたり、聞いてみたりしながら、学校という新しい環境について知っていく喜びを味わう〉 ・学校探検Ⅰ（生） ①1年生だけで行ってみよう ②2年生と一緒に行ってみよう ・交通安全教室（特活） ・つうがくろをあるいてみよう（生） ・がっこうだいすき（道） 自分たちでできるよ（★♡） 〈必要な係や当番の仕事を考えて、できることは進んでやってみようとする〉 ・係活動、当番活動の話し合い（特活） ・縦割り班掃除（特活） ・さもちのよいせいかつ（道） ・あかるいあいさつ（道） ・なんていおうかな（国） 見つけたよ、これなあに（★◇♡） 〈友だちと一緒に行きたいことや不思議に思ったこと、やってみようこと等の気付きを共有し、話し合ったり、調べたり、分かったことを自分なりの方法で表現したりしながら学びの楽しさを味わう〉 ・学校探検Ⅱ（生） ①がっこうにいるひととなくなくよう ②みつめた！や？をつたえよう ・ちいさのこうえんであそぼう（生） ・こんなものみつたえ（国） 育ててみようよ（★◇） 〈あさがおのぼる様子や、畑で育てたい作物を相談して植えたりし、成長を楽しみにしながら興味をもって世話しようとする〉 ・あさがおのぼるかんさつ（生） ・花いっぱい運動：学校花壇の植え付け（生） ・育てて食べよう：学校園（生） 勉強したいね（◇♡） 〈新しいことを知り、できるようになっていく楽しさを味わう〉 ・チャレンジ授業（算）・ページック授業（全）	〈 勇気・つながり・チャレンジ 〉 全校チャレンジ編（★♡） 〈2・3年生に、相手意識をもちながら取り組む大切さを教わり、共にやり遂げる喜びを味わう〉 ・低学年出店の計画、準備、運営（生、国、図、道、特活） ・なかよくね（道） 七夕交流会編（★♡） 〈相手を思い浮かべながら計画し、5歳児に教えながら飾りを作ったり一緒に遊んだりする〉 ・交流会の計画・準備（生） ・5歳児さんとの飾りづくり ・七夕交流会～保育所にて～
一緒に遊ぼうよ（★◇♡） 〈遊びを通して新しい友だちとのつながりを感じたり、自分たちで相談したり工夫したりしながら、活動する楽しさを味わう〉 ・体づくりの運動遊び（体） ・うたっておどってななくなくよう（音） ・固定遊具で遊ぼう（体） ・ねんどとななくなく（図） ・みずであそぼう（生） 本を通して言葉や想像の世界を広げよう（◇） 〈様々な本に触れ、想像を膨らませたり友だちと面白さを共有したりしながら、文字に親しみ言葉を知っていく楽しさを味わう〉 ・おはなしのしんは、としょかんへいこう（国） ・読み聞かせ（花矢図書館 ミラクルバナナ） ・読書タイム ・ことば検定			

入学式	給食開始	学校探検	☆運動会	ことばとまなびの小テスト	終業式
PTA授業参観・懇談会	縦割り清掃班スタート	交通安全教室・下校指導	☆チャレンジ活動	☆七夕交流会（保小）	夏休み
就学前施設職員授業参観・情報交流会			幼保小連携推進会議	幼保小担任研修会	保育士体験 夏季研修会
★ 入学した喜びを共有し、意欲的に取り組もうとする姿を認めおもしろく、児童の話を共感しながら聞いたりして、温かな安心できる環境や分かりやすい学習環境を整える。 ★ 幼児期の学びとのつながりを考慮し、幼児院に親しんだ活動を取り入れ、自信をもって活動できるようにする。 ★ これまでの経験を生かしながらやってみよう・考えてみようとする姿を認め、子どもの主体的な取り組みを支える。 ○ 生活科を中心とした総合的・関連的な指導を行ったり弾力的に時間割を工夫したりする。	★ 具体的な体験を通して、伝え合う、交流する、試行錯誤や繰り返す活動を保障し、お互いのよさやそれぞれの気付きを共鳴させるようにする。 ★ 運動会などの取組を通して、頑張っている姿や友達と協力している姿を価値付けし、意欲を高める。 ○ 登下校や縦割り班活動、運動会、ふるさとキャリアの活動などへの取組を通して、地域の方や他学年との関係づくりをするとともに、様々な人に支えられていることに気付くようにする。 ・ 保護者の協力に感謝すると共に、子どもの頑張っていることやできるよくなってきたこと、課題になることを具体的に伝えていく。 ・ 規則正しい生活習慣づくりやメディアコントロール、読み聞かせや音読、家庭学習など、継続する大切さを啓発していく。 ・ 学校行事や学年の活動、PTA活動などの保護者ボランティアへの協力をお願いする。	・ 学校の方針、1年生の目指す姿やスタートカリキュラム、重点施策等について伝え、理解を得る。 ・ 1年間の予定や1週間毎の具体的な予定を丁寧に伝え、保護者が見通しをもってできるようにする。 ・ 連絡帳や通信などで子どもの様子を伝え、保護者が安心してできるようにするとともに、家庭でも話題にしたり褒めたりしてもらえよう、様々な情報を発信していく。	・ 学校生活のリズムが身に付き、活動に見通しをもって準備したり約束やルールを守って行動したりする。 ・ 学校や通学路、公園などで安全に生活するために気を付けることに気付く、守って行動しようとする。 ・ 読んだり書いたり使ったりしながら、文字や数字、言葉による学びの楽しさを味わう。 ・ 経験したことや身に付けたことを活用したり友達の見方や考え方に触れたりしながら課題を解決していく。 ・ 自分の伝えたい目的や相手に応じて、言葉や方法を選んで伝えようとする。 ・ 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、連帯感や所属感を深める。 ・ 学校を支えている方々や地域の方などいろいろな人と関わることを楽しみ、地域への親しみを深める。	・ 学校生活のリズムが身に付き、活動に見通しをもって準備したり約束やルールを守って行動したりする。 ・ 学校や通学路、公園などで安全に生活するために気を付けることに気付く、守って行動しようとする。 ・ 読んだり書いたり使ったりしながら、文字や数字、言葉による学びの楽しさを味わう。 ・ 経験したことや身に付けたことを活用したり友達の見方や考え方に触れたりしながら課題を解決していく。 ・ 自分の伝えたい目的や相手に応じて、言葉や方法を選んで伝えようとする。 ・ 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、連帯感や所属感を深める。 ・ 学校を支えている方々や地域の方などいろいろな人と関わることを楽しみ、地域への親しみを深める。	・ 学校生活のリズムが身に付き、活動に見通しをもって準備したり約束やルールを守って行動したりする。 ・ 学校や通学路、公園などで安全に生活するために気を付けることに気付く、守って行動しようとする。 ・ 読んだり書いたり使ったりしながら、文字や数字、言葉による学びの楽しさを味わう。 ・ 経験したことや身に付けたことを活用したり友達の見方や考え方に触れたりしながら課題を解決していく。 ・ 自分の伝えたい目的や相手に応じて、言葉や方法を選んで伝えようとする。 ・ 友達と一緒に活動する中で、お互いを理解し、連帯感や所属感を深める。 ・ 学校を支えている方々や地域の方などいろいろな人と関わることを楽しみ、地域への親しみを深める。



架け橋充実期カリキュラム 展開例

5歳児9月～10月 ①遊びを発表会につなげる

経験させたい内容・活動名

「お話作り・劇遊びをしよう」 日常の遊びを友達と一緒にさらに発展させてお楽しみ会の発表につなげる。

イ 自立心 ウ 協同性 オ 社会生活との関わり
ケ 言葉による伝え合い コ 豊かな感性と表現

子どもの活動	◆環境の構成 と ●保育者の援助
お話のストーリーを話し合う。 「海賊団が、村人を助けるのはどうかな？」 「何から助けるの？」 「猛獣とか？」「悪い人たち？」	◆発想を広げたり、共通のイメージをもったりできるように、子どもたちの興味がある絵本などを準備する。 Point ❶ 子どもの発想を広げる絵本や材料の準備 ●感じたことや気付いたことを言い合える雰囲気づくりを心がける。
やりたい役や場面を決める。 「ぼくは、団長をやりたいな。」 「私は、村の娘をやりたいな。」	●なるべく子どもの好きな役になれるようにする。かち合った場合は話し合っ て折り合いをつけられるようにする。
お話の場面ごとに台詞を話し合う。 「○○ちゃんがおもしろい台詞を考えたんだよ。」	●友達と考えを伝え合う場面を見守り、実際に話してみたり、絵本のお話をヒ ントにしたりしてイメージに合ったものになるように援助する。 ●自分の思いを出せないでいる子どもに寄り添い、自分の言葉で伝えられるよ うに援助する。
各グループで考えた場面で遊んでみて振り返る。 「○○君の声が大きいね。」 「もっとびっくりした方がいいんじゃない？」	Point ❷ 活動の振り返りを生かして友達のよさに気付き、 表現力や協同性を高める。 ●お話のおもしろさに共感したり、頑張っている姿を認めたりする。 ●遊びを振り返って、友達のよかったところやがんばっているところを言葉で 伝えられるように援助する。
他のグループと見せ合って話し合う。 「ぼくたちも、もっと工夫したいな。」	●他のグループを見ることで、表現や道具などをさらに工夫しようとする意欲 を高める。 ●ビデオ撮影して記録を残しておく。
場面ごとのグループで必要な衣装や大道具、 小道具を作る。 「私の衣装にはリボンをつけたいな。」 「ダンボールで船を作ろうよ。」	◆イメージを膨らませる素材、作りやすい材料を準備する。 ●衣装や道具のアイディアスケッチをかくて友達とイメージを共有できるよ うにする。
作った物を使って遊んでみる。 「もっと丈夫にしたいな。」 「海賊団らしい音楽をかけたらかうかな。」	●子どもの発想を認め、実現できるような援助や言葉かけを心がける。 ●よりよいものにしようと繰り返し工夫する姿を認め、励ます。 ◆●思いを実現できるように援助する。

Point ❶ 子どもの発想を広げる絵本や材料の準備

子どもたちは、絵本からヒントを得たり友達と遊んでいる中で思い付いたりして、想像力を発揮しながら一つのストーリーを作っていた。また、台詞や大道具・小道具までも自分たちで協力して作り、一つのお話を創り上げていった。

Point ❷ 活動の振り返りを生かして協同性を高める

子どもたちは、役や場面を選択する時は、自分の好きな役だったり、好きな友達と同じ場面だったり理由は様々だったが、自分自身が役になりきって表現することが充実してくると周りにも目が向いてくるようになり、友達の上手な表現を見付けて生かしたり、小道具を思い付いたりしてさらに工夫するようになる。自分のアイディアや表現が友達に受け入れられる嬉しさが、自信をもって話し合いを進めたり、友達の意見にも耳を傾けて受け入れようとする姿につながっていった。

遊びの経緯

普段から「ごっこ遊び」や「なりきり遊び」が好きで、友達と一緒に遊んでいる子どもたち。読み聞かせした「わんぱくだん」のシリーズをモチーフに、「海賊団ごっこ」をして遊ぶようになった。仲間も日々増えていき、海賊の帽子や望遠鏡などの道具も作り、知っているお話やアニメの情報を混ぜてストーリーを展開させて楽しんでいる。保育者が、「楽しいお話になったね。そのお話をお家の人たちにも見せてあげたいね。」と提案すると、子どもたちも、「じゃあ、もっと○○を付け足そう。」「もっと道具を作ろう。」と、発想を広げたりいろいろなアイディアを出したりして、「お楽しみ会でお家の人たちに見せたい」という思いがふくらんだ。

遊びのねらい

- ・友達とイメージを共有し、想像を広げてお話を創り上げる楽しさを味わう。
- ・共通の目的に向かって話し合ったり役割を分担したりして協力して遊びを進める中で、自分の持ち味を発揮したり友達のよさを認めたりする。

育みたい力と小学校へのつながり

- ・「劇遊びをお家の人にも見せたい」という思いをもち、作りたいお話のイメージを共有しながら、自分なりに表現する喜びや友達と伝え合う楽しさ、お互いのよさを理解し合い協力し合いながらやり遂げる達成感を体験させたい。

【思考力・表現力・協働力】

友達のよさを見付ける

○○君の声がよく聞こえた。

○○ちゃんの、びっくりするところが上手だった。

あの帽子いいね。
僕たちももっとかっこよくしたいね。



よりよくするためのアイディアを出し合う

みんな、お客さんの方を見てしゃべったら、
もっとかっこいいと思うよ

ビデオを撮る人はずっと後ろだからもっと大きな声で
言った方がいい。おじいちゃんとおばあちゃんは見
に來られないから後でビデオで見るんだけど、聞こえな
いとおもしろくないよ。

Aちゃんはカーテンの陰になって見えないから
もっと真ん中に出たらいいんじゃない？

だって、恥ずかしいもん。

そうだよ。でも、勇気を出せば大丈夫。

お家でもやってみたら自信が出るよ。

端っこだと声もよく聞こえないよ。

分かった。真ん中でやってみる。

！ 友達に、「もっと真ん中に出て話したらいいよ。」とアドバイスされたA子は、はじめは、「だって恥ずかしいもん。」と答えたが、A子の思いを受け止めてアドバイスしてくれた友達の言葉を聞くうちに、自分の気持ちに折り合いを付けて、「分かった、真ん中でやってみる。」と一歩を踏み出すことができた。友達と考えが対立した時には、保育者がじっくりと見守ることで、自分たちで解決しようとするこも増えた。常に活動を振り返って話し合いながら、相手の気持ちになって考えたりよりよくしようと工夫したり、協同的に問題を解決しようとする力が育まれてきた。

架け橋充実期カリキュラム 展開例

5歳児12月～1月 ②文字や数を取り入れて遊ぶ

経験させたい内容・活動名

「郵便屋さんごっこをしよう」好きな人に手紙を書いて送ろう

子どもの活動	◆環境の構成 と ●保育者の援助
年賀状や手紙を見て興味をもつ。 「私もお手紙書きたいな。」 「何をかいたらいいのかな。」 「〇〇ちゃんに出したいな。」	◆子どもたちからもらった年賀状や園に届いた手紙などを保育室に掲示する。 ●手紙を読んであげ、手紙には相手が喜ぶことをかくように伝える。 Point 1 手紙に興味をもち、書いてみたいという意欲を高める。 環境の構成と援助を工夫する。
伝えたいことを文字や絵で表現する。 「〇〇ちゃんの顔をかわいく描いたよ。」 「できた！嬉しいな。」 「〇〇くんはおしり探偵が好きなんだよ。」 「友達の名前はどこに書くのかな。」	◆はがき大の画用紙、柔らかい鉛筆(4B,2B)、色鉛筆、ペン、「手紙のかきかた」を準備し、書きたいときにいつでも書けるようにする。 ●分からないことがあったら、友達から聞いたり相談したりできるようにつなげる。 ●聞きに来たときには「ひらがな表」の見方を教えたり、保育者が別の紙に書いてあげたりする。
手紙を渡す。 「〇〇ちゃんが、喜んでたよ。」 「お返事くれるって言ってたよ。」	◆書いた手紙は、ポストに出して郵便屋さんが届けたり、直接相手に渡して反応を感じたり、どちらもできるように準備する。 ●相手に気持ちが届いた喜び、相手の気持ちが伝わった喜びに共感し、周りの子どもにも伝える。 ●手紙を待つ楽しみ、届いた時の喜びに共感する。
返事をもらう。 「お返事、早くこないかな。」 「女の子の絵があるよ。これ私かな。」 「また、お手紙書きたいな。」	○遊びの振り返りで二人のやり取りを周りの子どもにも紹介し、楽しさを共有する。 Point 2 手紙をやり取りする楽しさ、気持ちが通じ合う喜びを共有しながら、遊びがクラス全体に広がるようにする。

遊びの経緯

日常生活で、絵本や言葉集め、しりとり、カルタ遊びなどで言葉に触れる遊びを楽しみ、文字や数字を読んだり書いたりする姿、覚え立てのひらがなを自分なりに書いて満足する姿、書きたいけれど分からなくて子ども同士で教え合う姿が見られる。また、子ども同士で好きな絵を描いて見せ合ったり交換したりして遊ぶ姿も見られる。その中で、「もっとひらがなや数字を覚えたい」「ひらがなや数字を書けるようになりたい」という願いも生まれている。

遊びのねらい

- 手紙で伝え合うことに興味をもち、自分の思いを絵や文字、数字、記号など様々な方法で表現する楽しさ、手紙を通して気持ちが通じ合う喜びを味わう。

育みたい力と小学校へのつながり

- 「郵便屋さんごっこ」で、文字や絵、記号、数字などを使って友達とやり取りする遊びを通して、文字や数字などに親しむとともに自分の思いを自分なりに表現して友達と伝え合う楽しさを経験させたい。
- 幼児期の文字や数字、記号や標識などに興味をもって遊びに取り入れて友達とやり取りする楽しさが、入学後のひらがなや数字などの学習や友達に思いを伝える意欲につながる。

Point 1 手紙に興味をもち、書いてみたいという意欲を高める環境の構成と援助を工夫する。

郵便局の「手紙の書き方体験授業」と連携してきっかけをつくってもよい。友達だけでなく家族や先生、地域の方など、いろいろな人に関心を広げることにつながる。



〇〇ちゃんへって書けばいいの？

そうだよ。自分の名前も書くんだよ。



ねえ、だれに書いてるの？
ばくも書こうかな。

〇〇さまの「ま」って
どうかくんだったけ？

〇〇くんの好きなおしりたんていの
絵をかいたんだ。
喜んでくれるといいな。

わあ、うれしいな。
何が書いてあるかな。
お返事書こうっと。



👑 お手紙書くの楽しいな



👑 友達喜んでくれるかな



👑 お手紙もらった。うれしいな

Point 2 手紙をやり取りする楽しさや気持ちがつながる喜びを共有しながら、遊びがクラス全体に広がるようにする。

お手紙の遊びが広がってくると、子どもたちから「ゆうびん屋さんごっこをしよう」と案が出てくる。「ゆうびん屋さんごっこ」がクラスに広がってきたら、遊びの展開のためのスペースや郵便ポスト、仕分け箱、郵便バイクなどを、子どもの興味やアイデアに応じて作っていく環境を整える。



郵便屋さんのバイク見たら
後ろに荷物載せる大きな台
がついていたよ。

今日もたくさんお手紙が入って
いるね。配達が大変だ。
ねえ、何枚ずつ配る？



📌 郵便局の仕事への興味・関心が高まってきたら、絵本で調べたり、実際に郵便局に見学に行き働く様子を見たりして仕事の内容を調べることも「社会生活との関わり」を育てることにつながる。はがきや切手の販売、日付押し、仕分け、配達などの役割を分担しながら、やってみたい係を選んで遊べるようにする。

架け橋充実期カリキュラム 展開例

1年生4月～5月 ③課題をもって調べ、伝え合う

経験させたい内容・活動名

「わくわくがっこうたんけんたい」【生活科・国語・学級活動・道徳等】

イ 自立心 ウ 協同性 オ 社会生活との関わり
カ 思考力の芽生え ク 言葉での伝え合い

活動の流れ	教師の関わり
▼生活科(2時間) 学校の中で知っている教室、 行ったことがある場所を発表する。 「発表会のとき、体育館に行ったよ。」 「転んだときお薬をつけてもらったお部屋。」 「本がいっぱいあるお部屋を知っている。」	Point 1 子どもの気付きを共有して問題解決につなげる。 ・拡大した校舎配置図を見ながら、発表した教室や場所に印を付けていく。 ・行ったことがない教室、知らない場所がたくさんあることに気付かせ、探検への意欲を高める。
行きたい場所ごとに3～4人のグループになり、 探検の約束を話し合って決める。 「走るとあぶないよ。」 「大声を出すと勉強のじゃまになるよ。」	Point 2 約束は一方的に教えず、子どもの話し合いで気付かせ、確認、共有するようにする。 ・行動しやすいように少ない人数で構成する。 ・グループで決めた約束をみんなで共有する。
学校の地図を見ながら探検する。 「ここは、なんの部屋かなあ。」 「校長先生だ。こんにちは。」 「理科室には怖いガイコツがいた。」	・学校の地図と気付いたことカードを準備する。 ・事前に職員に協力をお願いし、階段、体育館、理科室などで見守ってもらう。 また、質問にはすぐに答えず自分で考え解決したくなるような対応をしてもらうようにする。
行った場所と発見したこと、 疑問に思ったことなどを発表し合う。 「この部屋は、先生がたくさんいました。」 「給食を運んでいる人がいました。」	・拡大した校舎配置図に気付いたことカードを貼ったり発表したりして共有する。 ・働いている人にも興味をもたせ、次の探検につなげるようにする。
次の探検で、行きたいところや知りたいこと、 やってみたいことを話し合う。 「先生のお部屋に入るとき、何て言えばいいのかな。」 「本がたくさんある部屋で借りたい。」 「会った人に自己紹介や質問をしてみたい。」 「放送しているところを見てみたい。」 →生活科、国語などへ ・グループでさらに調べたいところを話し合い探検する。 ・見付けたこと、分かったことなどから紹介したいことを選んで、紹介し合う。	Point 3 子どもの興味・関心や思いをもとにして、活動を組み立てる。 道徳「きもちのよいあいさつ」 国語「おはなしよんで」「どうぞよろしく」 「みんながつかうもの」 「こんなものみつけたよ」 学活「学校のルールやマナー」 音楽「タンタンタウンのリズムで、 図工「しょうかいカードづくり」 なまえのリレーをしよう」 Point 4 振り返りを大切にし、いろいろな表現方法で活動を充実させる。 ・絵や写真、地図、文字などで表す支援をする。

Point 2 身に付けさせたい約束やルールはたくさんあるが、教え込みではなかなか身に付きにくいもの。活動の中から生まれた気付きを生かして、子どもたち自身に「なぜか」「どうすればよいか」を考えさせるようにする。

Point 1・3
・入学間もないこの時期は、新たな環境で見付けたことや疑問に思うことがたくさん。子どもの気付きに共感しながら、みんなで解決していこうとする意欲を高めたり、解決する過程を共有して活動の仕方を学んだりすることで、主体的に関わろうとする態度を育てる。
・探検して、「職員室に入るとき何て言えばいいかな」「会った人に自己紹介したいな。」という疑問や願いが生まれる。それを拾って道徳や学級活動などの活動につなげる。また、「見付けたことを話したい。」という気持ちを国語の「話す・聞く」学習に、見付けた数字や言葉などは算数の数字の学習や国語の「書く」学習になど、子どもの思いを生かして各教科等のねらいを達成できる活動を工夫することで、興味・関心が途切れることなく続いていく。

就学前に身に付けた力とのつながり・育みたい力

- ・虫や恐竜、植物などについて、「名前を知りたい。」「育て方はどうするんだろう?」と思ったとき、図鑑や本で調べたり、友達と話し合ったりして疑問を解決している。
- ・やってみたいことなど共通の目的に向かって、友達と一緒に活動しながら、自分の思いを言葉で表したり友達の考えを受け入れたりする経験をしている。また、楽しく活動するには、ルールを守ることが大切なことも知っている。
- ・表現したいこと伝えたいことを、文字や数字、絵などを使って表現している。
- ・入学後、「体育館で遊びたい。」「本がいっぱいの部屋があったよ。」「給食を運んでいる人がいたよ。」など、学校のいろいろな場所や仕事をしている人に関心をもつようになる。「知りたい」「行ってみたい」という思いを大切に、一人の疑問をみんなで解決したり学級で共有したりして繰り返しその場所や人と関わることを通して、みんなで問題解決する過程を楽しむ。

活動のねらい

- ・一人一人の興味・関心に基づいて探検することを通して、学校の施設の様子や自分たちを支えている人々の思いに気づき、安心して生活する。
- ・探検を繰り返したり友達と共有したりしながら気付きの質を高め、学校への愛着を深める。

活動への興味・関心をもたせる工夫

- ・校舎の地図や特別教室などの写真から、「探検に行ってみたい」という意欲を高める。
- ・さらに調べたいこと、疑問に思ったことについて調べられるように、グループで話し合いながら調べたい場所を探検する時間を十分に確保する。

！子どもの興味・関心をもとに組み立てた合科的・関連的な指導例

4月1～2週目の実践例

●図工:紹介カードづくり
「じぶんマークでみんなともだち」

●国語
「どうぞよろしく」
「なんていおうかな」
わたしの名前は〇〇です。
お話を聞いてもよいですか。
どんなお仕事をしていますか?

●生活科:学校探検
「わくわくたんけんたい」
放送室で、2年生がアナウンスを聞かせてくれたよ。

●国語
「こんなものみつけたよ」
大きなたいこがあったよ。
絵をかいて友達にも教えたいな。
不思議なものがあったよ。何かな。
「また、行ってみようよ。」

●道徳
「気持ちのよいあいさつ」
「おはようございます」
「しつれいします」
「ありがとうございました」

●算数
「なかまづくりとかず」
友達7人もできてうれしい。
5つの部屋を調べたよ。

●学級活動
「学校のルールやマナー」
廊下は走らないほうがいいよ。
うるさくしちゃだめだね。

●音楽
「タンタンタウンのリズムで、なまえのリレーをしよう」

架け橋充実期カリキュラム 展開例

1年生5月～6月 ④みんなのためにできること

イ 自立心

ウ 協同性

オ 社会生活との関わり

経験させたい内容・活動名

「かかりのしごとをしよう」 係の仕事に進んで取り組む。【朝、帰りの会、学級活動】

活動の流れ	教師の関わり
▼事前:朝や帰りの時間など 「やりたい」と思った仕事をやってみる。 「黒板の字を消したいな。」 「お花に水をやりたいな。」 「電気を消します。」	Point 1 子どもの活動につながる言動を拾う。 「やりたい」という意欲を大切にし、やりたいときにやらせてみる。 - 他の子どもたちにも投げかけ、「みんなのための仕事」をする意欲をもたせる。
「あったらいいな」と思う仕事を考える。 「保育園には、出席調べの仕事があったよ。」	Point 2 園での経験を生かせるようにする。 やったことがある仕事、「あったらいいな」と思った仕事は、忘れないように付箋に書いて学級会コーナーに貼れるようにする。
▼学級活動(1時間) 見付けた仕事や「あったらいいな」と思う仕事を発表する。 「友達のノートを集めました。」 「ありがとうって言われて嬉しかった。」 「休み時間に、遊ぼうって誘う人がいたらいいね。みんなで遊んだら楽しいから。」	- 学級会コーナーに貼ってある仕事を見て思い出させる。 - やってみたらどうだったかも話せるようにし、仕事の楽しさや役に立つ喜びに気付かせる。 - やったらよいと思うわけも話せるようにする。
自分でやりたい仕事を決める。 「私は黒板消しをしてみたい。」 「ぼくは、朝、いつも電気をつけているから続けてやりたい。〇〇君、一緒にやろうよ。」	一人一人の「やりたい」意欲を大切にし、希望する子どもが複数いたら、「いつやるか」を考えて分担したり、曜日で交代したりして、みんなが活動できるようにする。
仕事に名前を付け、係カードをつくる。 「『こくばんがかり』にする?」 「保育園では、『はいたつやさん』という名前だったよ。」	- 学級でみんなで役割を決めて仕事をするを「係」ということを伝える。 - 名前を決めたり、係カードをつくったりすることで主体的に取り組めるようにする。
▼事後(常時活動) 選んだ仕事をやってみて活動を振り返る。 「ぼくは、毎朝、忘れないで電気をつけています。」 「〇〇ちゃんが、お花に水をやってくれました。いいなと思いました。」 「〇〇君が、全部一人でやっちゃって、ぼくのやることがないの。」	Point 3 一人一人のがんばりやよさを認め合えるようにする。 - 帰りの会などで活動を振り返り、自分や友達の頑張っている様子を伝え合うようにする。 - 子どもたちの様子や声から、困っていることもキャッチしておく。
▼学級活動(1時間) 係の仕事をした感想や頑張っていること、困っていることを出し合う。 「並べ係さんが、忘れていてみんなよりも遅く来ます。」 「やろうと思っても、もう誰かがやってる。」	- 頑張っていることや工夫していることを認め合い、活動の意欲や自己有用感を高める。 - 困っていることを見付けたことを認め、解決の話し合いの意欲を高める。
困っていることは、どうしたらよくなるか考えて出し合う。 「忘れてたら、やろうって声をかける。」 「順番を決めて、代わりばんこにやればいい。」	Point 4 「どうしたらいいかな。」と投げかけ、子どもたちの自主的な解決につなげる。 - みんなで考えた解決方法をコーナーに貼る。 - 頑張ったことや困ったことをみんなで伝え合いながら、一緒に活動を高めていくよう助言する。

就学前に身に付けた力とのつながり・育みたい力

- 就学前は、保育者の援助のもと、グループごとに、毎日の出席調べ、掃除、生き物の世話などの仕事を分担し、協力して取り組んできた。
- 入学後、5月頃になると、自分のことだけでなく、「みんなの役に立つこと」を行う姿が見えてくる。朝教室の電気をつけたり、窓を開けたり、机をそろえたり…。学級の生活にも慣れ、友達関係も広がってくるこのような時期に、学級のみんなのために自分のできることを考えて実践したり、友達の役に立つ喜びを味わったりすることを通して所属感を高めていきたい。

活動のねらい

- 生活の中から学級で自分たちができることを見付け、友達と分担したり協力したりしながら実践することを通して、仕事の楽しさやみんなの役に立つ喜びを実感する。
- 友達と話し合っ活動を進めたり、活動を振り返ってさらに工夫したりする。

活動への興味・関心をもたせる工夫

- 学級の生活の中で「やりたい」と思う仕事を見付けたら、朝や帰りの時間などにさせてみる。
- 「やりたい」「こんな仕事があるといいな。」と思うことは紙に書いて学級会コーナーに貼る。

Point 1 就学前の経験を生かしてステップアップできるようにする。

就学前も、机を並べて拭いたり、出席調べをしたりしてみんなのために仕事をしていた経験がある。そのときに味わった、「自分の仕事がちゃんとできた」という自信や満足感をこの活動に生かしていくようにする。

Point 2 子どものつぶやきや表情から「やってみたい」思いをキャッチし実現させる。

一人一人の「学級のために仕事をしたい」という思いをキャッチし、それを実現していくことで、「自分が認められた」という安心感や、「みんなのためにできた」という自己有用感につなげていく。

Point 3 一人一人の努力や工夫を認め意欲を高めながら次の活動につなげる。

初めは当番と係の区別は難しいので、当番活動のようになりがちだが、まずは、「みんなのためにがんばることが楽しい」という思いを育みたい。そのために、頑張っている姿を教師が価値付けたり、友達と認め合ったりする場をもつことが大切。自分の仕事に満足すると、次第に友達の頑張りに目が向くようになり、活動にも広がりや工夫が表れてくる。

Point 4 課題を見付けて自分たちで解決する力を育てる。

活動がスムーズに進められるように支援することも大切だが、何か問題が起きたときに自分たちで解決方法を見付けられるようにすることも特別活動で育てたい力である。子どもたちは、就学前にも、友達との気持ちのぶつかり合いを経験し、その中で友達の気持ちに気付いたり、折り合いを付けたりして乗り越える経験をしている。課題を見付けられたことやそれを解決するアイディアを出せたことを認めながら、子どもたち自身で解決する力を育てたい。



●学級活動の話し合い

架け橋充実期カリキュラム 交流事例
5歳児・1年生11月 ①手作りおもちゃで一緒に遊ぶ交流活動

経験させたい内容・活動名 「あきのおもちゃでたのしくあそぼう」【生活科】思いを伝え合いながら一緒に遊ぶ。		
【年長児】◆予想される子どもの姿と ●保育者の援助	活動の流れ・時間	【1年生】◆予想される子どもの姿と ●教師の支援
●保育者が園での手遊びをすることで安心感をもち意欲を高める。 「あ、知ってる!いつもの遊びだ。」	楽しい手遊びで気持ちをほぐす。[始業前]	●年長児に楽しんでもらおうという思いを高める。 「年長さん、楽しんでもくれるといいな。」
◆どんな活動になるか興味をもって聞く。	本時のめあてを確認する。[5]	◆ペアの年長児にどのように声をかけたらよいか、発表し合う。
あきのおもちゃでたのしくあそぼう。		
「どんな遊びをするのかな。」 ◆説明をよく聞いて自分の遊びたい玩具を考える。 「楽しそう。どれから遊ぼうかな。」 「つりの玩具が楽しそうだな。」	玩具の紹介をする。 [全体5]	「遊び方を優しく教えてあげたい。」 ◆楽しいポイントや遊び方のコツを年長児に説明する。 「楽器は音楽に合わせて鳴らしてください。」
◆チームの友達や1年生と遊ぶ。 「輪投げから行きたいな。」 「魚、全部釣っちゃったよ。」 「ぼく、楽器得意になった。」 「迷路はちょっとむずかしかった。」	玩具コーナーを回って遊ぶ。[チームごと30] 	◆年長児の思いを聞きながら、遊ぶ順番を決める。 「次はどの玩具で遊びたい？」 ◆遊び方を説明したりコツを教えたりする。 「どんぐり迷路は、コースアウトしないようにゴールしてください。」
●遊びの様子を見守りながら、遊びたいコーナーを1年生に伝えたり、困った時には1年生に相談したりするように援助する。 この楽器、ぼくたちがあげた栗を使ってるんだね。		◆コーナー毎に、感想を聞いたり、シールを貼ってあげたりする。 「けん玉どうだった?上手だったね。」「ごほうびシールをあげるよ。」 ●困った時はグループで相談して解決できるように見守ったり助言したりする。
◆1年生の様子から刺激を受けて自分も話そうとする。 「1年生が優しく教えてくれた。」 「今度は1年生に園に来てもらいたい。」 	振り返りをする。 [全体5]  1年生の玩具は楽しかった。	●振り返りの視点を提示し、様々な視点で話せるようにする。 ●遊びの様子から紹介したい関わりを見つけて価値付けし共有する。 「年長さんに優しくできた。」 「楽しんでもらえて嬉しかった。」 「がんばって作ってよかった。」 「手作りシールを喜んでくれて嬉しかった。」

●年長児活動のねらい

自分の遊びたい玩具を見付け、1年生や友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

●育てほしい姿

- ウ 協同性
- オ 社会生活との関わり
- カ 思考力の芽生え
- ケ 言葉による伝え合い

●1年生活動のねらい

年長児と一緒に遊びながら、遊び方を分かりやすく伝えたり関わりを楽しんだりする。

●内容、育成を目指す資質・能力

(8)生活や出来事の伝え合い【学びに向かう力、人間性等】

事前の打ち合わせ、活動への興味・関心をもたせる工夫

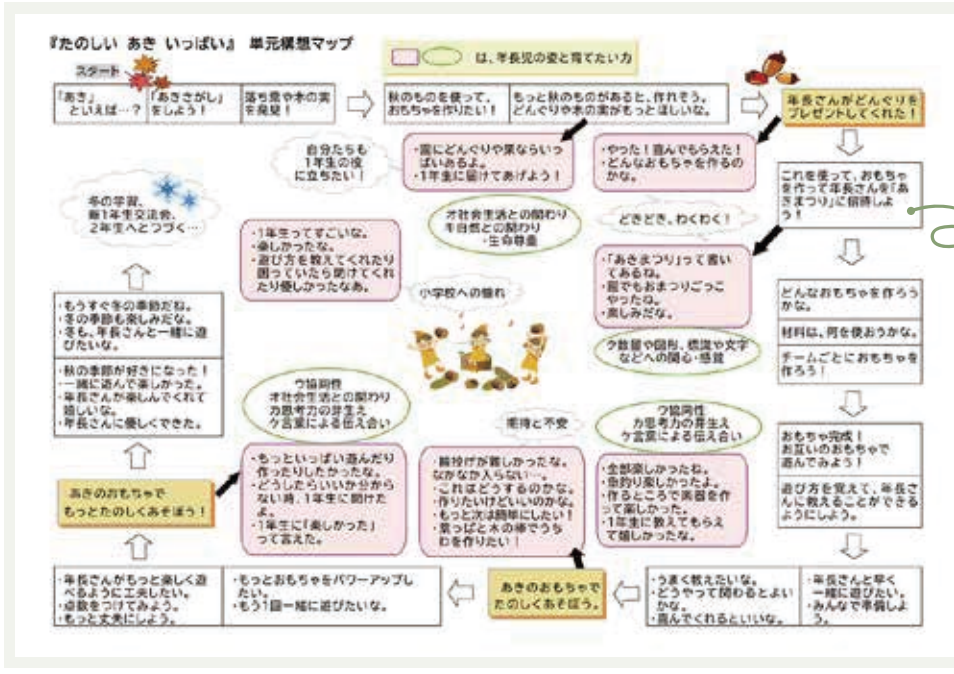
- ・活動への興味・関心や集中時間、説明や指示の理解など、年長児と1年生の実態を共有する。
- ・お互いに関わろうとする気持ちを高めるために、こども園と保育園の子どもたちから、栗やどんぐり、松ぼっくりをプレゼントしてもらったことを活動のきっかけにする。
- ・関わり方などを考えて遊べるように、活動のめあてをもてるようにする。

Point ① 活動を通して育てたい力と、そのための環境の構成と援助・支援を共有する。



- ・おもちゃまつりに年長さんを招待して一緒に遊ぶ交流をしたいが、子どもの自発的な交流になるようにするにはどうしたらよいか。
- ・年長児も、ただ招待されて遊ぶのではなく、年長児なりのねらいをもった交流にしたい。
- ・こども園ではたくさん栗が採れる。その栗を1年生にプレゼントして遊びに生かしてもらうのをきっかけにしたい。
- ・交流を通して、1年生と年長児のやり取りがたくさん生まれるためには…。
- ・交流の中でお互いにやり取りして楽しさを共有し、さらに仲よくなるように…。
- ・1年生の優しさは、年長児にとって、年下の子どもへの関わり方のモデルとなる。
- ・1度だけでは、緊張してしまうかも。慣れてくると思いを表現できるのでは。

Point ② 自発的な交流になるように、活動のきっかけや流れを工夫した単元を構成する。



園で採れた木の実を届けることを活動のきっかけに。



木の実をたくさんありがとう。お礼に、園の友達と一緒に遊びたいから、ぜひ来てね!

Point 3 年長児の1年生との交流への見通しや意欲を高め、安心して参加できるようにする。



- ・園でも木の実を使った飾りや玩具づくりをして遊んだり、サークルタイムで1年生との交流を話題にしたりしたことで、次の交流をととても楽しみにしていた。また、活動に見通しをもって参加し、素早く並んだり興味をもって話を聞いたりする姿が見られた。
- ・1年生と、こども園、保育園の子どもの3～4人のグループにしたが、こども園と保育園との事前の交流や1回目の玩具遊びの交流ですでに仲よくなっていることもあり、始まる前からグループで楽しく会話していた。遊びの中でも、安心して思いを伝え合う姿が見られた。

こども園の友達と1年生と遊ぶのが楽しみです。
「けん玉」が楽しみです。

Point 4 「年長児に楽しんでほしい」という思いや相手意識を大切にしながら、玩具を改善したり、一緒に遊ぶときの関わり方を考えたりできるようにする。



お魚どんどん釣れるよ。
釣ったらどうするの？

〇〇ちゃん、すごい上手だね。釣った魚は、このバケツに入れるんだよ。

楽しかった？
ごほうびシール貼ってあげね。
次は何で遊びたい？



これまで、年長児と一緒に遊ぶことをイメージして玩具を改善したり、ごほうびシールを作ったりして準備してきた1年生は、「年長さんに楽しんでほしい」という思いいっぱい、遊び方を教えたり一緒に遊んだり、自作のシールを貼ってあげたりと張り切って活動する姿が見られた。年長児も、「どうやるの？」と質問したり、「お魚、いっぱい釣って楽しかった。」などと自分の思いを表現しながら遊ぶ姿が見られた。

Point 5 一緒に活動の振り返りをする中で、お互いの頑張った姿を認め合ったり、楽しさを共有したりして、達成感につなげるようにする。



1年生みたいな玩具を作りたいです。
それでまた一緒に遊びたいです。

年長さんが「楽しい」って言ってくれて嬉しかった。
がんばって作ってよかった。



事前の交流が生かされ、年長児も1年生も活動に見通しをもって安心して活動していることが感じられた。1年生は、「年長さんが喜んで遊んでくれて嬉しかった」「優しくできた」など、活動に達成感を感じていることが伝わってきた。年長児も1年生から刺激を受けて、たくさんの振り返りを発表していた。

年長、1年生の子どもたちがお互いを高め合うことができただけでなく、先生たちが、子どもの実態や活動のねらいを話し合うことで、お互いを理解し合うことにもつながった交流となった。

架け橋充実期カリキュラム 交流事例
5歳児・1年生2月 ②体験入学

●年長児活動のねらい

小学校の学習や生活を体験し、就学への期待と見通しをもつ。

●1年生活動のねらい

学校の学習や生活について自信をもって紹介し、自分の成長にも気付く。

●育てほしい姿

- イ 自立心
- ウ 協同性
- オ 社会生活との関わり
- カ 思考力の芽生え
- ケ 言葉による伝え合い

事前の打ち合わせ、活動への興味・関心をもたせる工夫

「小学校についてどんなことを知りたいか、体験してみたいか」を年長児に聞き取りするなどして活動に生かすことで、年長児が学校生活をイメージできるような活動を工夫する。



👑 学校紹介・学校探検

学校の学習や生活、施設について1年生が紹介したり実際に案内したりする。1年生は、4月に学んだ学校施設のおすすめポイントを中心に説明した。年長児は、「図書室で本を借りたい。」「難しい漢字書いてみたい」などと、学校生活へのイメージを膨らませ、就学に期待している様子が見られた。保護者も一緒に探検する学校もあり、保護者の不安解消にもつながっていた。



👑 学習体験

国語や算数の教科書を一緒に見たり、手本を見ながら自分の名前を書いたり、算数セットを使って数当てをしたりする。年長児が、ひらがなやカタカナをすらすら読む姿に、1年生がびっくりする場面もあった。線のおけいこや色塗りをする様子はもうすっかり1年生のような落ち着きがあった。この体験は、園での文字や数を使った遊びにもつながる。



👑 給食体験

給食は、年長児と保護者が不安に感じていることの一つ。「どのぐらいの量が出るのか」「時間内に食べられるか」などの不安を解消し、少しでも給食を楽しみにしてもらいたいと考えて、給食の交流をしている学校もある。1年生はベアの年長児に手洗いや配膳の仕方、後始末などをていねいに教えていた。いつもは小食の1年生が完食する様子も見られた。



👑 掃除体験

そうきんがけは、年長児から取り入れている園もあるが、ほとんどがから拭き。給食のおしぼりを濡らして絞っている園もある。掃除体験では、そうきんの絞り方や拭き方、モップのかけ方などを教えてもらった。優しく説明してくれる1年生の話をよく聞いて、約束を守りながらていねいに掃除をしていた。

このほかにも、学校の「ふるさとキャリア教育」で取り組んでいる活動の紹介やスクールバスの乗り方の練習、学校のクイズ、ころがしドッチボールやしっぽ取りなどのゲーム、手作りの玩具で遊ぶなど、学校ごとに活動を工夫している。年長児は、1年生に優しく接してもらうことで安心感をもち、就学への期待が高まっていく。また、保護者も参加している学校では、一緒に探検して他学年の学習の様子を見たり、1年生が司会進行して活躍する様子や年長児に優しく接する様子を見たりすることで、不安が解消されることにつながっていた。コロナ感染症対策で直接交流が難しい場合には、オンラインで学校紹介をしたり、ビデオメッセージや手紙にしたりして送るなどの工夫もされている。散歩の途中で学校の遊具で遊んだり学校の図書室から本を借りたり、業間マラソンを一緒に走ったりと、様々な方法でのアプローチが工夫されていた。

架け橋期カリキュラム 実践例

①多様な育ちへの発達支援

大館市では「一人たりとも置き去りにしない教育」を目標に掲げ、子ども課と教育委員会が連携して、就学の時期を支える体制があります。幼児期から小学校低学年の子どもの発達や経験の幅には個人差が大きく、一人一人の実態を早期に把握し、必要な相談や支援につなげることは、安心できる学びの場、学びの土台づくりへの大事な橋渡しとなります。

1。満5歳すてっぷ相談

年中児が、誕生月に保護者と参加します。子どもすてっぷでは、発達の状況(運動機能、コミュニケーション、発音、認知機能)を簡単な検査によって把握します。結果については、在籍園を通して、保護者との相談へつなげたり、必要に応じて検査したりします。また、園での生活の中での個別の配慮や経験の積み重ねを依頼します。親すてっぷでは、教育委員会が架け橋期の発達の理解や就学に向けて大切にしたいことの講話をしています。また、希望の保護者には、小児科医ほか専門家との個別相談もしています。

満5歳すてっぷ相談

<目的>
◎就学を見通し、集団への不適応、人との関わりが苦手な子の早期発見、早期対応
◎就学を見通した生活習慣づくりについての保護者への啓発

<内容>
◎事前アンケート(保護者)
・生活習慣 行動 悩み
◎子どもすてっぷ
・検査…発話、動作、操作、知的理解
・観察…集団行動、理解、関心姿勢
◎親すてっぷ
・学習会…就学を見通した子育て、基本的な生活習慣、健康
◎個別の相談…希望者のみ

日時 月1回 13:15～15:15
対象 年中児(誕生月)とその保護者
場所 上川弘公長館
スタッフ 子ども課・教育委員会 特別支援学校・小児科医

<結果>
・保護者への通知書
◎カンファレンス後の記録を臨床心理士が吟味 → 経過観察、要検査・相談
◎臨床心理士や巡回支援専門員等が各園を巡回訪問して観察
◎各種相談、検査へ ◎就学時健康診断の情報として小学校へ

2。幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」

教育委員会では、年長児の9月からの半年間、小学校入学を控えて、発達に心配がある子ども、集団生活への適応が心配な子どもを小集団で指導・療育しています。就学支援員が、小学校での生活や学習を見据えて、集団での行動の仕方、運動遊び、文字や数などへの興味を高める活動を行っています。指導の情報は、保護者や園と共有するとともに、小学校の1年生担任にも提供されます。

ぐんぐんへの参加回数を重ねるたびに、一人一人の大きな成長が見られます。

幼児通級指導教室「育ちの教室ぐんぐん」

<目的>
◎一人一人の特性を踏まえ、就学に向けての態度や意欲を高める。

期間 9月～2月 週1回
時間 13:15～14:00
対象 年長児 1教室7名程度
※保護者の希望で申込
場所 児童会館

<スタッフ>
◎教育委員会(就学支援員)
◎子ども課(巡回支援専門員・臨床心理士)
◎公立保育園(発達支援コーディネーター・障害児担当保育士・担任保育士)
◎特別支援学校(地域支援担当)
◎教育研究所職員

<内容>
◎運動・学習
◎小集団の中で、指導に従う、着席する、順番を守る、話を聞く等の経験のできる活動や遊びを取り入れる。
<流れ>
始まりの会 → 運動・ゲーム → 文字や数の活動 → 終わりの会

結果と今後の指導方法のヒントを調査者が学級担任へ説明

◎発音 ◎見え方
◎短期記憶 ◎読み書き

★結果：通級一担任→保護者・通級指導教室・個別指導・MIMやビジョントレーニングなどの支援プログラム提供・教材・教具の貸し出し・心理検査・各種相談

3。ことばとまなびの小テスト

文字や数へのつまずきに、入学間もない段階で気づき、その子に応じた指導方法や支援の在り方を、通級指導教室と学級担任が共有しています。小学校では、各教科とも文字や言葉での学習が中心となるため、つまずきの大きい場合には、通級指導教室の利用につながっています。

令和4年度から、「個別的教育支援計画」が同一様式になり、園から小学校へデータで引き継ぐ体制が始まりました。

一人の子どもを長い目で、多くの関係者で支え、応援していきます。

小1 通級「ことばとまなび」の小テスト

<目的>
◎小学校入学後の学習における適応状況を把握
◎読解障害、読み書き障害の早期発見

時期 1年生の6月実施。
経過観察児の追調査は11月
スタッフ 小学校通級指導教室担当 就学支援員

<内容>
◎発音:「うさぎ」「しか」「ざぶとん」
◎読字:「か」「み」「しゃ」「しょう」「びく」
◎図形の模写:正方形・三角形・丸形・星形
◎数の復唱・注視
★学級担任からは、「学習」「生活」面で個別の指導を要する子どもを事前情報として提供

★結果：通級一担任→保護者・通級指導教室・個別指導・MIMやビジョントレーニングなどの支援プログラム提供・教材・教具の貸し出し・心理検査・各種相談

架け橋期カリキュラム 実践例

②早期から英語に親しむ環境

小学校では、3・4年生が外国語活動、5・6年生は教科としての外国語の授業が行われています。大館市では、早期から英語に親しむ環境として、小学校英語推進アドバイザーが、全小学校の1・2年生と希望する園に年2～3回訪問して、英語に親しむ活動をしています。

おおだて型学力では、多様な仲間や地域の人々と協働して社会を創り上げる力が求められます。新しいもの・ことに出会うことに、抵抗感なく意欲的に取り組むこの時期に、異文化や言語に触れる体験は、多様な人々と共生するための第一歩になります。また、英語での活動は、他者とのコミュニケーションの仕方を学び、繰り返し経験する機会にもなります。

1。園における「英語で遊ぼう」

挨拶、歌、じゃんけん、絵本、はちくんイングリッシュソングズ、ワンだふるはちくん(英語Vr.)などの活動を組み合わせて、異文化や言語への興味を高めています。動作化したり、真似たりしながら、何度も発音しているうちに、色々な単語が身に付いていきます。時には、先生が何を言っているのか、どう発音しているのか、注意深く耳を傾ける場面も見られます。口々に「分かった」「言えた」「覚えた」などの声が聞かれ、新しいことを学ぶことへの意欲が伝わってきました。



2。小学校1・2年生における活動



3学期の生活科で、1～2時間程度の英語に親しむ活動をしています。2回目に英語教育推進アドバイザーが来校すると、自分から積極的に話しかけたり、挨拶したり、自己紹介したりと、普段より積極的に人と関わる姿が見られます。言葉による最低限の指示、身振り、手振り、絵カード等で状況を理解しながら、45分間に挨拶、歌、じゃんけん、数える、自己紹介、動物や色、好きな果物の単語を使った会話、クイズなどの活動におおだて型の授業の視点も取り入れ、友達に拍手を送ったり、「Me too」などの反応をしたりしながら、新しい知識や文化(言語)を、喜んで覚えよう、使おうとする姿が見られました。前年に同じ活動を経験している2年

生の積極性や知識の量、活動に向かう姿勢は、初めての1年とでは大きな違いがあります。年に2回ほどの活動ですが、カリキュラムに位置付けて、どの小学校でも同じ経験ができていれば、3年生の外国語活動の導入期が変わってきます。2年生は自信ある表情で、4月から始まる外国語活動への期待を膨らませていました。

3。子どもたちの生き生きとした学ぶ姿から

就学前教育は環境を通して行う教育であり、子どもたちは体験を中心に総合的に力を身に付けていきます。そして、架け橋期は、言葉で友達との関係性をつくったり、言葉を介して思考し、伝えたりする力が大きく伸びる時期です。また、小学校でも、生活科をはじめとして体験を多く取り入れた授業をしています。気付きや思いを話す・伝える・書くなどの活動が多くなります。入学期には、言語を介した学び方に移行するための指導を工夫する必要があります。

英語に親しむ活動では

- ・一対一で、先生と目を合わせ会話する時間、声をかけられる機会が何度もある。
- ・一人一人の活動量や発話量が確保されている。
- ・自分の意思を示しながら参加できる。簡単な自己選択、自己決定の場がある。
- ・活動内容、学習形態がバラエティーに富んでいる。
- ・先生や友達から拍手や褒められる機会が多い。
- ・明るく楽しい雰囲気、授業にリズム・テンポがある。
- ・繰り返ししているうちに覚える、抵抗がなくなる。
- ・理解や思考を助ける絵カードやジェスチャー、モデルがあり安心して取り組める。
- ・「分からない」「何って、言うの?」と質問しやすい。

1・2年生の生き生きとした学びの姿には、架け橋期の発達の時期に適した学び方、授業改善のヒントがあります。

架け橋期カリキュラム 実践例

③保護者との連携 メディアコントロール力向上に向けた取組

扇田小学校/扇田こども園/扇田保育園

有浦小学校/カトリックこども園/有浦保育園

東館小学校/東館保育園

西館小学校/西館保育園



大館市の児童・生徒の生活習慣の調査では、「就寝の遅さ」が大きな課題となっています。その一因となっているのが、メディア使用時間の増加と考えられています。そのため、市教育研究会学校保健部会が中心となって、平成31年度より、小・中学校で連携しながら、子どもたちがメディア使用を自分でコントロールし、健康的な生活習慣が身に付くようにと願い、様々な取組を進めてきました。

しかしながら、小学校1年生に入学する段階で既にメディアへの依存傾向が見られる児童が増えてきていることを踏まえ、就学前施設とも連携して保護者への啓発を図る必要性が高まってきました。

ここでは、学区のこ保小中で連携した「メディアコントロール週間」の実施や学校保健委員会などへの取組の事例を紹介します。

1. メディアコントロール週間への取組

比内地区の小学校は、学区の就学前施設にも呼びかけて、こ保小中で連携して「メディアコントロール週間」を実施しました。今年度は、年長児と一緒に取り組み、そのことを通して、保護者にも、「メディアをコントロールすることで十分な睡眠時間を確保すること、十分な睡眠が心の安定と日中の集中した活動や学びにつながることを意識してもらいたいと考えました。

保健委員会の子どもたちが、年長児に直接ポスターを手渡すことで、子どもたちのやる気も高まりました。年長児は、「約束を守ろう」という気持ちが強い時期です。自分の目標を保護者と話し合い守ろうと努力したことが、保護者アンケートから感じられました。また、家族みんなで目標を話し合い声を掛け合って達成しようとするのが大切だという保護者の気付きもありました。

- をたくさんつけたいと頑張りました。いつもはなかなか起きられず 起きてからもノロノロしていることが多いですが、自分で時計を見たり進んでテレビを消したりするよい姿が見られました。
- 寝る時間が遅くなった日は翌日もやはり眠そうでした。睡眠時間を優先して生活しようと思いました。
- いつもアニメを好きだけ自由に見させていましたが、家族みんなで時間を意識したり声を掛け合ったりして取り組みました。
- ユーチューブの時間をいつまでにやめるか、時計を見ながら決めましたが、兄が見ていると決めた時間を守ることができませんでした。親もだまって見ていると楽なところもあり、親が依存させてしまっているのだと改めて気付かされました。

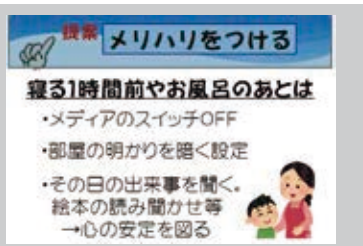
年長児への参加呼びかけ



2. 入学前の保護者への啓発

扇田小学校では、年長児の就寝時刻の平均が1年生よりも遅い実態を踏まえて、就学時健康診断の保護者説明会でも「生活習慣の見直し(特に睡眠の大切さとメディア利用)」について、養護教諭の講話を行いました。

また、入学についての期待が高まる2月にも、年長児の保護者向けに「ほけんだより」を発行することで、睡眠時間の大切さへの理解を深めてもらいました。



3. 学校保健委員会、保護者向け講話の実施

有浦小学校では、こ保小中で連携したメディアコントロール週間への取組や「生活習慣に関する実態調査」の結果を、学校保健委員会や保護者向けの講話でも取り上げながら、保護者に、「メディア使用による心身への影響を理解し使い方のルールを子どもと話し合うこと」を訴えました。

① メディアコントロール週間と生活習慣実態調査の実施

小学校児童/こども園・保育園年長児

学区の年長児と小学生のメディアに触れる時間や内容、就寝・起床時刻、メディア使用について心配されることなどについての実態調査を行いました。

② こ保小連携推進委員会

こ保小職員参加

実態調査の結果分析・考察と今後の活動の進め方について協議しました。年長児の保護者は、「メディア使用について心配なことはない」と答えている割合が高く、小学校の保護者との意識の違いが話題になりました。

③ 小学校学校保健委員会

こ保小職員/保護者/学校医参加

年長児は、YouTubeを視聴している割合が93%で、1年生もその割合が高いことや、夜9時以降のメディア使用が1年生よりも年長児の割合が高いことなどが話題になりました。学校医からも、スマートフォン使用の低年齢化による目や心身への影響が問題視されていることが紹介されました。



④ 小児科専門医による講話

こ保小職員/保護者参加

「メディア使用による心身への影響について～睡眠、依存～」 学校医 梅内孝倫 先生



「スマートフォンは乳幼児にとっても極めて親和性が高く、使い始める時期が早まっている。0歳後半から使っている子どもが既に35%に達している。スマートフォンやメディア使用は脳や心身の発達に大きく影響する。特に睡眠時間の減少、ブルーライトの刺激による睡眠の質の低下は、成長ホルモンの分泌や免疫力の低下を招き、心の不安定さや切れやすくなることにつながっている。幼児がスマートフォンに触れる時期をできる限り遅くするために、妊婦健診などでも呼びかけている。」

アルコールや覚醒剤と同じように、スマートフォンは最強の依存物となります。

たくさんの資料や研究報告を基にした説得力ある講話でした。改めてスマホ依存の怖さを知るとともに、子どもを依存症にしないために大人ができることを教えていただきました。

- 自分自身がネット依存度がグレーゾーンだと思います。大人が依存している状態を改めないと、子どもも依存してしまうことになると感じました。まずは、自分の生活を見つめ直して変えようと思います。
- 低学年の子どもの帰宅後から夕食までの3時間をどう過ごすかが課題。お手伝いをさせたりおやつを食べながら学校の話をしたりして、自然とゲームから離れる時間を作る努力をしています。

⑤ 小学校校長による講話

有浦保育園年中児保護者参加

「スマホ子育て注意報」 有浦小学校 野呂謙一 校長先生



有浦保育園では、年中児のお遊戯会に合わせて講話の機会を設定しました。資料と有浦小の子どもたちの実態を交えながら、「メディア利用は、子どもたちに必要なリテラシーであるが、使い方を間違えると情緒の発達(特に自制心や心の安定)や言葉の発達に悪い影響を及ぼす」と、「スマホ依存にならないための家庭のルール作りのポイント」について伝えました。ほとんどが父母ともに参加し、真剣に聞いていました。

お子さんとメディアの使い方について話し合っルールを決め、大人も守りましょう。

- 今日の話を聞いてハッとしました。話す言葉がYouTubeの番組と同じです。もっと絵本を読んだり会話したりする時間を作りたいです。
- うちの子どもも無表情でYouTubeを視ていることが多いので心配です。依存症にしないために、自然と触れ合う遊びを増やしたいです。

5歳児の遊びと環境の構成・1年生の学習・生活の環境

5歳児の遊びと環境の構成 イメージを広げ思考の芽を育む環境を！

① 素材や道具がいつでも取り出せる環境

子どもたちが、自分のイメージに合う材料を選んで使うことができるように、また、素材との出会いからさらにイメージが広がるように、多様な素材を、いつでも子どもが選んで取り出せる環境を工夫します。



③ 遊びで探究心を高める環境

寒い日は氷がよくできてね

気温の道路表示を見て、気温と氷の出来やすさに関係があることに気付きました。「気温を、毎日カレンダーに書いてみたら？」保育者の言葉で、さらに探究心が高まりました。毎日の気温と氷のできやすさを◎○△で記録し、「今日は-8度だから、氷がよくできたね。」「日陰のところがよく凍ったね。」友達と、そんな会話をするようにもなりました。



⑤ 文字や数量、記号などへの興味・関心を高める環境

けーきの「け」は？



ひらがなへの関心



数量への関心



記号への関心

② 適切な道具を選べる環境

堅い素材を幼児用のはさみで切ったり、はさみの先で無理矢理穴を開けたりする危ない場面を見かけます。年長児だけの特別ルールとして、千枚通しやきりなどの適切な道具を、保育者が見守りながら使うことができるようにしたいものです。本物の道具は、子どもたちの作りたいもののイメージに近い表現を生み出し発想を広げてくれます。使い方の約束を守って、怪我から自分を守る力を育てることにもつながります。



④ 自然との関わりを深める環境

園庭に咲く花を集めて、すり鉢やおろし金ですって色鮮やかな色水を作って遊ぶ様子はどの園でも見られます。この遊びは、透明な容器を準備することでさらに豊かなものになります。色の美しさが際立ち、混色による色の変化もより楽しめます。アサガオ、オシロイバナ、露草、紫蘇、ピーマンなど、色が出やすい植物を園庭の角やプランターで育てたいものです。自然の美しい色や香りを楽しむだけでなく、採った種を翌年蒔いて花を咲かせることで、生命のサイクルを体感することもできます。花や野菜を自分たちで毎日お世話することで、たくさんの気付きも生まれます。



表への関心

1年生の学習・生活の環境

見て、分かって、できる環境を！

① 視覚的に分かりやすく、見通しをもって活動できる表示の工夫

1年生は、何でも自分の力でやってみようとする意欲が高い時期です。先生の指示がなくても自分で時計を見て次の活動を考えたり、見通しをもって生活できるようにします。一日の予定や机上の使い方など、見て分かって自分でできるような環境の工夫が大切です。言葉だけでなく、モデルや図、写真などで示すことで理解を助けます。慣れてくると子どもたちが係活動や当番の仕事として取り入れるようになります。



このような掲示は、見なくてもできるようにすれば「卒業だね」と、子どもたちの成長を認めてはすすこともよいですね。

② 安心して活動できる環境の工夫

就学前は、4～6人程度のグループ机で製作活動などを行っています。お互いに教え合ったり相談し合ったりしながら、安心して活動できる環境です。入学当初は、一人ずつの席に座っている時間が続くと、緊張感が増したり不安な気持ちになったりします。活動内容に応じて、お互いの顔が見える形態を取り入れましょう。



安心できるトイレ

入学当初から、座席が名前順のままということはないでしょうか。4月の身体測定後は、身長や視力、聴力などの身体的特徴や一人一人の特性に配慮した席にします。机の高さが身体に合っているかも確認し、合わせる必要があります。

集団学習が苦手な子どもには、一人で落ち着く場所を用意することも大切です。事前の情報を参考にして、パーテーションなどを使ってスペースを確保し、子どもの興味のあるものを置いておきます。気持ちが落ち着いたら席に戻る約束も、子どもと話し合って決めます。



安心できる居場所づくり

城西小学校 [校長 花田 一雅]
大館ホテヤこども園 [園長 布袋屋幸穂]
宮の杜神明こども園 [園長 佐藤 文人]

釈迦内小学校 [校長 佐藤 潔]
向陽こども園 [園長 日景 陽司]
釈迦内保育園 [園長 佐々木和子]

花岡小学校 [校長 浅野 直子]
花岡保育所 [所長 田中伊津子]

架け橋期のカリキュラム開発会議

委員長 島内 智秋 (柴田学園大学短期大学部 学長)
副委員長 花田 一雅 (城西小学校 校長)
委員 武石 郁子 (秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事)
委員 岡部 賢哉 (秋田県教育庁北教育事務所 指導主事)
委員 布袋屋幸穂 (大館ホテヤこども園 園長)
委員 日景 陽司 (向陽こども園 園長)
委員 高橋 敦子 (城南保育園分園 園長)
委員 田中伊津子 (花岡保育所 所長)
委員 浅野 直子 (花岡小学校 校長)
委員 鎌田 晴美 (大館市福祉部子ども課 課長補佐)
委員 山本多鶴子 (大館市教育委員会教育研究所 副主任幹)

架け橋調査研究委員会

宮野田鶴子 (城西小学校 教務主任)
木村真寿美 (城西小学校 1年担任)
田村 成子 (大館ホテヤこども園 主幹保育教諭)
佐々木 藍 (大館ホテヤこども園 年長児担任)
工藤 潤子 (宮の杜神明こども園 主幹保育教諭)
桜場 晴香 (宮の杜神明こども園 年長児担任)
永瀬有希子 (釈迦内小学校 教務主任)
川原 由惟 (釈迦内小学校 1年担任)
佐々木タ子 (向陽こども園 主幹保育教諭)
泉 咲紀子 (向陽こども園 年長児担任)
富樫 周子 (釈迦内保育園 主任保育士)
片岡瑠美子 (釈迦内保育園 年長児担任)
東海林賢子 (花岡小学校 教務主任・1年担任)
小畑 美穂 (花岡保育所 主任保育士)
根本 伶奈 (花岡保育所 年長児担任)

事務局

架け橋コーディネーター 大丸ふさ子 (大館市教育委員会教育研究所)
幼保小連携アドバイザー 齊藤 潤子 (大館市教育委員会教育研究所)
事業担当事務 主査 菅原 陸 (大館市教育委員会教育研究所)
一般事務補助 三浦 直子 (大館市教育委員会教育研究所)

